

第1回 はじめに、講義内容の概要

○講師の自己紹介

○授業の概要と方法・到達目標

○ビデオ

ある企業の仕事風景：机の上の仕事、製造ラインの仕事、自動化された製造

○各回講義の内容・項目

- ・ 第1回：はじめに、講義の概要：
講座担当者の自己紹介とこれからの講義内容の説明をします。
- ・ 第2回：資本主義への発展と雇用制度：
雇用の歴史を考えます。資本主義以前はどのように働いていたのか、産業革命以後、資本主義の発展とともに、働き方がどのように変わってきたのか、を取り扱います。
- ・ 第3回：日本的雇用慣行と企業中心社会：
日本的雇用慣行について考えます。日本型企业社会が成り立つとともに、どのように日本的雇用慣行ができ、企業中心社会が成立してきたのかを考えます。
- ・ 第4回：雇用の多様化と正規・非正規雇用：
正規雇用と非正規雇用について考えます。雇用の多様化が叫ばれている現在、正社員や契約社員、パート・アルバイト、さらに派遣労働者、様々な形態で労働者が働いています。産業構造の変化とグローバル化がどのように働く人の雇用に変化をもたらしたのか、を取り上げます。
- ・ 第5回：人材派遣制度と派遣労働者：
非正規雇用の中でも最も不安定就業といわれるのが派遣労働者です。人材派遣がどのような背景で合法化されたのか、雇用と人事管理にどのような影響をもたらしたのか、派遣労働者の働く現場や待遇、人材派遣会社の実態、構内業務請負制と人材派遣の関係などを取り上げます。
- ・ 第6回：賃金制度と仕事の評価：
雇われて働くということの一番の目的は、労働の対価としての賃金を得ることであるともいえます。賃金はどのように決まるのか、どのように払われるのか、その場合の仕事の評価はどのようになされるのかを考えます。また職種等級による賃金査定と様々な手当・残業手当、さらに最低賃金制度なども取り上げます。
- ・ 第7回：労働時間と働きすぎについて考える：
企業に雇用されて働くということは、労働者が自らの生活時間の一部を、企業のために働く時間として売り渡すということを意味しています。しかしながら、今の日本の多くの労働者は、長時間労働の元に置かれていることは周知の事実です。サービス残業・ブラック企業・ブラックバイト・過労死に焦点を当て、どうすれば自由な時間を取り戻すことができるのかを考えます。
- ・ 第8回：就職から退職まで：
企業に雇用されて働き、やがては退職する、という流れの中で、労働者は日々仕事をしていま

す。その長い時間の流れの最初が求職であり、与えられた職場と課せられた仕事をこなし、幸運にも昇進の機会が与えられ、いずれは定年を迎え退職することになります。途中で自ら進んで退職を選択することもあります。そのような仕事の人生を考えます。

・第9回：キャリアを考える：

企業に雇われて働くということは、自ら持つ能力・技術を買われて、その期待にこたえるように成果を出すことでもあります。仕事をする中で蓄えた経験や技能は、仕事をするうえで最も大切な能力です。科学技術の発展によって働き方が変わり、変化していくのかを考えます。

・第10回：性別分業：女性労働と外国人労働等について：

性別分業はこれまでの日本の社会の中で根強く残っている慣習です。女性が雇われて働くことが多くなった現代では、女性労働の問題はとても重要な事項です。男女雇用均等と言われながらも、大きな差別と壁があることは確かです。また、外国人労働者の問題も考えます。

・第11回：労働者を守る制度について：

雇う企業と雇われる労働者は雇用契約上では対等な立場にいます。しかしながら、実際には企業の側が有利な立場にいます。様々な労働者を守る制度が築かれてきました。それらを知ることが働く人々にとって、とても重要な知識であり、あらかじめ知ることによって自らを助ける糧になります。そのような問題を考えます。

・第12回：さまざまな働き方・新たな働き方：

高齢化社会を迎え、高齢者雇用や介護労働、さらに障害者雇用を取り上げます。また、公務労働やNPO・NGOで労働、さらに地方での働き方・起業、労働移動、ワークシェアリング、ベーシックインカムも考えます。

・第13回：雇用の流動化と労働規制緩和政策：

多くの先進諸国はこれまでの労働規制を緩和しようとする政策が近年とられてきています。日本も例外ではなく、労働者の働き方を守る様々な政策や規制を「岩盤規制」と呼んで掘り崩されようとしています。働き方改革はどこから来てどこに行くのか、そして、よりよく働くためには何が必要なのかも考えます。

・第14回：まとめ1：日本的雇用慣行と非正規化：

これまでの講義の内容を2回に渡ってもう一度概括します。まとめ1では日本的雇用慣行と非正規化の問題を取り上げます。

・第15回：まとめ2：働きすぎと性別分業：

まとめ2では働きすぎと性別分業の問題を取り上げます。

○参考文献の紹介

森岡孝二『雇用身分社会』岩波新書

森岡孝二編『貧困社会ニッポンの断層』桜井書店、

ロナルド・ドーア『働くということ—グローバル化と労働の新しい意味』中公新書

濱口桂一郎『新しい労働社会—雇用システムの再構築へ』岩波新書

森岡孝二『就職とは何か—〈まともな働き方〉の条件』岩波新書

※その他、竹信三恵子『ルポ雇用劣化不況』岩波新書、佐賀一道『「非正規大国」日本の雇用と労働』新日本出版社、今野晴貴『ブラック企業—日本を食いつぶす妖怪』文春新書、森岡孝二編『格差社会の構造—グローバル資本主義の断層』桜井書店 など